

自己の生き方についての考えを深める道徳教育の工夫

— 防災教育と関連させた教科等横断的な道徳学習プログラムの開発を通して —

呉市立和庄小学校 石川 ひとみ

研究の要約

本研究は、自己の生き方についての考えを深める道徳教育の工夫について、防災教育と関連させた教科等横断的な道徳学習プログラムの開発を通して考察したものである。文献研究から、自己の生き方についての考えを深めるとは、児童自身が道徳的価値を基に、これからの生き方についての思いや課題をもつことであり、現代的な課題を含めた身近な問題と結び付けて考えることで、主体的に行動しようとする態度を育成できることが分かった。そこで、「防災でつながる道徳学習プログラム」を開発した。具体的には、道徳科で「生命の尊さ」「親切、思いやり」「勤労、公共の精神」の内容を取り上げ、道徳的心情から道徳的判断力、道徳的实践意欲と態度をねらうという順で構成し、社会科及び学級活動の防災に関する学習内容と関連させて行うこと、ウェビングマップや振り返りなどを取り入れた両面1枚の学習シートを作成すること、地域の防災活動について取り上げること等の工夫を行った。その結果、児童が地域の防災に対して思いや課題をもち、主体的に行動しようとする態度が見られるようになり、自己の生き方についての考えを深めることができると分かった。

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別の教科道徳編（平成30年、以下「29年解説」とする。）では、児童自らが道徳性を養う中で振り返って成長を実感したりこれからの課題や目標を見付けたりできるよう工夫することが示されている。また、道徳科の内容で扱う道徳的諸価値は現代社会の様々な課題に直接関わっていることから、身近な問題と結び付け、自分との関わりで考えられるようにすることが求められている。現代的な課題を扱う際も、自分がどのように生きていくべきかなど考えを深められるようにすることが求められている。

所属校は、地域の支援を得やすい恵まれた教育環境にあり、防災訓練など地域の協力を得た学校行事が行われている。児童は活動に参加することを通して地域の人々の思いやりを感じ、感謝の気持ちをもつことはできている。しかし、それらの行事に対し児童は受け身であり、自分から他者や地域に主体的に関わって行動しようとする態度が十分育まれていないと感じる。所属校の平成31年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙「人が困っているときは、進んで助けていますか」の肯定的回答は85.7%であり、全国平均（87.9%）及び県平均（89.3%）と比べると下回っていることから、行事等を通して地

域の人々から学んだ思いやりの心を自己の生き方につなぐことは十分できていないと考える。

防災教育は、「29年解説」において現代的な課題の一つとして挙げられている。豪雨災害を経験した児童にとって防災は身近な問題であり、自分自身の問題として受け止められると考える。また、小学校学習指導要領（平成29年告示、以下「学習指導要領」とする。）では、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとして示されている。

そこで、本研究では第5学年を対象とした「防災でつながる道徳学習プログラム」を開発する。社会科「自然災害を防ぐ」の学習を踏まえ、児童が「自然災害」の言葉を基に思い浮かべたキーワードから道徳科へとつなぐ。また、複数の道徳科の授業を道徳的实践意欲と態度が育めるように構成し、地域の防災活動を取り上げ、地域の人々の思いを感じ取らせる。そして、実践的な行動に向かうよう学級活動につなぐ。そうすることで児童がこれからの生き方についての思いや課題をもち、主体的に行動しようとする態度が育まれると考え、本主題を設定した。

Ⅱ 研究の基本的な考え方

1 自己の生き方についての考えを深める道德教育について

(1) 自己の生き方についての考えを深めるとは

赤堀博行（2017）は、自己の生き方についての考えを深めるとは、児童自身がこれからの生き方についての思いや課題を培うことであると述べている。毛内嘉威（2017）は、道德的価値のよさや意義、困難さ、多様さなどを理解し、道德的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われることであると述べている。また、浅見哲也（2018）は、身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにするとともに、これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めていくことであると述べている。

以上のことから、自己の生き方についての考えを深めるとは、児童自身が道德的価値を基に、これからの生き方についての思いや課題をもつことであると考ええる。

(2) 生き方についての思いや課題をもつために

前述にあるように、「29年解説」では、道德科の内容で扱う道德的諸価値は、現代社会の様々な課題に直接関わっていることが示されている。栗林芳樹（2016）は、道德科で実社会・実生活における現代的な課題を扱うことにより、自分との関わりで実感を伴って考えることができると述べている。柳沼良太（2018）は、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うためには子供一人一人が現代的な課題を含めた人生の諸問題に向き合い、どう生きればよいかを主体的に考え、よりよいと判断した行為を具体的に実践していくことが必要となると述べている。

以上のことから、生き方についての思いや課題をもつためには、身近な問題と結び付け、自分との関わりで考えられるようにすること、また、これからの生き方について考え、具体的に実践していく態度を育てることが大切であると考ええる。

(3) 防災教育と関連させることについて

防災教育は、「29年解説」において現代的な課題の一つに挙げられている。「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議」【最終報告】（平成24年）では、災害発生時に自ら危険を予測し回避するための「主体的に行動する態度」を育成し、支援者となる視点から安全で安心な社会づくりに貢献する「共助・公助」の精神を育成する防

災教育の重要性が示されている。広島県自然災害に関する防災教育の手引（平成25年、以下「防災の手引」とする。）では、児童生徒に自然災害などの危険に際して主体的に判断・行動し、自分の命を守り抜く力と将来地域のリーダーとして主体的に防災活動を進めていく態度の育成が求められている。

また、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編（平成30年）では、節度、節制に心掛けることの大切さ、生命の尊さの自覚、社会参画の精神などを道德教育で深めることが、安全の確保に児童が積極的に関わる態度につながると示されている。さらに、自然災害から身を守ることや危機管理など安全に関する指導に当たっては、学校の安全教育の目標や全体計画、各教科等との関連などを考えながら進めることが大切であると示されている。

以上のことから、防災教育と道德教育を関連させて取り組むことは、児童が主体的に行動しようとする態度へとつながると言える。そのために、道德科を要とした道德教育を他教科等と関連を図って取り組む必要があると考える。

2 防災教育と関連させた教科等横断的な道德学習プログラムの開発について

(1) 主体的に行動しようとする態度につなぐために

道德教育を防災教育と関連させて取り組むためには、道德性を育み、実践的な行動につなげていくことが大切であると考ええる。「29年解説」によると、道德教育は道德性を構成する諸様相である道德的判断力、道德的心情、道德の実践意欲と態度を養うことが示されている。その中の道德の実践意欲は、道德的判断力や道德的心情が基盤となること、道德的態度は、道德的行為への身構えであることが述べられている。また、道德性は、徐々に、しかも着実に養われることによって、潜在的、持続的な作用を行為などに及ぼすものであるだけに、長期的展望と綿密な計画に基づいた指導がなされ、道德の実践につなげていくことが大切であると述べられている。

以上のことから、本研究の道德学習プログラムで行う3時間の道德科の授業においてのねらいを道德的心情から道德的判断力、さらには道德の実践意欲と態度を養っていくといった順で構成していく。

(2) 防災教育と関連させる道德科の内容項目について

文部科学省「学校安全資料『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」（平成31年）によると、防災

教育は安全教育に位置付けられている。また、「学習指導要領」では、安全に関する指導について、各教科等においてそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めることと示されている。

「防災の手引」では、道徳科と関連させた全学年共通の内容項目としてDの「生命の尊さ」を挙げている。それに加え、低学年では「A（3）節度，節制」を，中学年では「B（7）感謝」を，高学年では「C（14）勤労，公共の精神」をそれぞれ挙げている。

諏訪清二（2015）は，災害で失われた命の尊さや災害時の助け合いと思いやりなどの人間のもつ価値を学ばせる教育が必要であると述べている。押谷由夫（2019）も，子供たちがこれから（現在も）正対しなければいけない社会的課題に対し，道徳的に学べるようにすることが必要であると述べている。その例として自然災害への対応を取り上げ，生命の尊さや自然愛護，親切，思いやり，公共の精神などと関わらせることを述べている。

所属校がある地域は，地域合同防災訓練など防災活動に以前から取り組んでおり，地域に住む児童に対しても命と安全を守ることや地域の担い手として育てることなどを考え，温かく関わってくださる。今年度から新たに「子ども防災リーダー訓練隊」を立ち上げ，地域を守る砂防ダムの見学など精力的に児童と関わり，取組を進めている。児童にとって，地域が大事にしている命を守ること，周りの人を思う親切や思いやりの心，地域に役立つとする態度を育むことは大切であると考えます。

以上のことを踏まえ，本研究の道徳科では「D（19）生命の尊さ」「B（7）親切，思いやり」「C（14）勤労，公共の精神」の内容項目を扱う。

（3）教科等横断的な道徳学習プログラムについて

文部科学省「第2次学校安全の推進に関する計画」（平成29年）では，自助，共助，公助の視点を適切に取り入れながら，地域の特性や児童生徒などの実情に応じ，各教科等の安全に関する内容のつながりを整理し教育課程を編成することが必要であることが示されている。

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会科編（平成30年）第5学年の内容では，「我が国の国土の自然環境と国民生活」において，国や県の防災・減災に向けた対策や事業について調べたことを手掛かりに，国土の自然災害の状況を捉えることなどが示されている。また，国や地方自治体が防災の対策や事業（公助）を行っていることや，地域が行

う助け合い（共助）の大切さについても理解できるような単元の内容となっている。この社会科の内容と道徳科の授業を同じ時期に関連させて学習することで，より理解や考えを深めることができると考える。

本道徳学習プログラムの最後の学習は，育まれた道徳的実践意欲と態度がさらに実践的な行動に向かってように学級活動の授業を行う。ここでは，矢守克也（2005）らによって開発された「防災クロスロードゲーム」を行う。災害時や避難をする際のジレンマを体感し，自分の問題として考え，他の人と様々な意見や価値観について共有させ，実践的な災害対応の力を育めるようにする。

以上のことから，本研究では第5学年を対象とし，道徳科を要としながら社会科と関連させて学習を進め，学級活動や日常生活での主体的な行動へとつないでいく教科等横断的な道徳学習プログラムを構成し，実施する。

（4）道徳科の授業での工夫について

ア 「防災でつながるシート」の工夫

堀哲夫（2019）は，一枚ポートフォリオ法（OPP A：One Page Portfolio Assessment）を提唱している。学習履歴が1枚の用紙に収まるように工夫し，授業の終わりに自己評価をさせることで，自分自身の変容に気付き，学ぶ実感を体得させることができると述べている。

そこで，道徳学習プログラムの学習において児童の学びの意識が持続・発展していくよう，「防災でつながる」をテーマにした1枚の学習シートを作成する。具体的には，文部科学省「今，求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」（平成22年）にも挙げられるウェビングマップを取り入れる。「防災でつながるシート」の表面を図1に示す。

図1 「防災でつながるシート」（表面）

ウェビングマップは漠然としたイメージを視覚化することができるため、「自然災害」をキーワードに児童がイメージを自由に思い浮かべ、広げたりつなげたりしながら防災に対する自分の思いや課題をもつことができると考える。また、社会科の授業で思い浮かべた「命の大切さ」などのキーワードを取り上げ、道徳科の授業につなぐことで、児童の思考が自然に流れると考える。

イ 自己の生き方についての考えを深める振り返りにする工夫

「29年解説」では、学んだ道徳的価値に照らし、自らの生活や考えを見つめるための具体的な振り返り活動の工夫が必要であることが示されている。加藤宣行（2017）は、道徳科の授業で手立てとなる思考活動の視点について述べている。「分かった、ということか（知的理解）」「それっていいなあ、そういう人にあこがれるなあ（情的な心の動き）」「自分にもできそう、やってみたい（実践意欲の向上）」の三つを挙げている。また鈴木保宏（2017）は、道徳科の授業が実践と結び付くためには授業の中で道徳的価値の視点を与えて書かせることを述べている。その際の視点として、「今日の授業で分かったことは何か（価値理解）」「主人公と自分を比べて書いてみよう（人間理解・自己理解）」「自分はこれからどうしていきたいか（自分の課題）」を挙げている。

これらのことを踏まえ、同じ1枚の学習シートで他教科等でも共通の視点で振り返りを書くことができる「防災でつながるシート」の裏面を図2に示す。共通する振り返りの視点については表1に整理した。

図2 「防災でつながるシート」(裏面)

表1 自己の生き方についての考えを深める視点

振り返りのキーワード		道徳科における視点
①	(今日の授業で) 分かったこと	価値理解
②	(授業の中で) いいなと思ったこと	情的な心の動き
③	自分ができそうなこと、やってみたいこと	実践意欲の向上

ウ 地域の防災活動についての話を取り入れる

「29年解説」では、道徳科は家庭や地域社会の連携を進める重要な機会となることが示されている。

また、浅見（2016）は授業の実施や教材の開発、活用などにおいて、保護者や地域の人々の参加や協力を得ることで、指導の効果を一層高めることができると述べている。

そこで、各道徳科の授業の終末に地域の防災に関する説話や地域の人によるビデオメッセージを取り入れる。地域で取り組んでいる防災活動について取り上げることで地域の人々の生き方を見つめ、これからの自己の生き方についての思いや課題をもつようにしていく。また、前述のウェビングマップに地域の防災活動や地域の人々の思いもつないでいく。

これまでの考えを基に研究構想図を図3に示す。

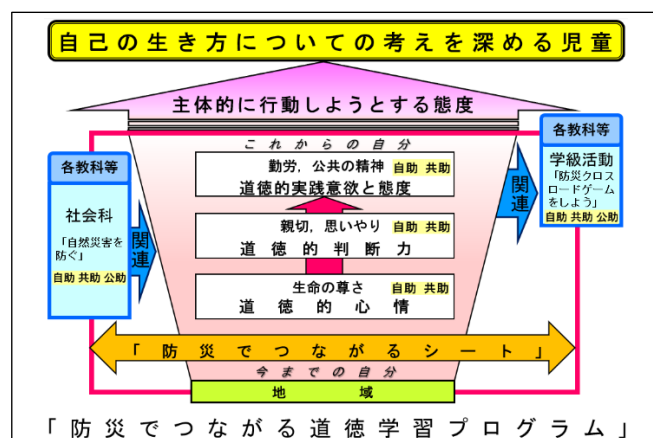


図3 本研究における研究構想図

Ⅲ 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

道徳的価値の視点から防災教育を扱い、道徳科と他教科等との関連を図りながら、地域の防災活動の想起や「防災でつながるシート」を工夫した「防災でつながる道徳学習プログラム」を行うことで、児童はこれからの自己の生き方についての考えを深めることができるであろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、次頁表2に示す。

表2 検証の視点と方法

検証の視点	方法
防災教育と関連させた「防災でつながる道徳学習プログラム」は、自己の生き方についての考えを深めるのに有効であったか。	アンケート(事前・事後)ワークシート 「防災でつながるシート」 授業記録
防災教育と関連させた「防災でつながる道徳学習プログラム」の工夫は、自己の生き方についての考えを深めるのに有効であったか。	
(1) 道徳的価値の視点から防災教育を扱い、道徳科、他教科等を関連させたこと	
(2) 「防災でつながるシート」の工夫	
(3) 道徳科の授業で地域の防災活動について話を聞いたこと	

○ 大単元名

「防災でつながる道徳学習プログラム」

(全7時間)

○ 目 標

自然災害や防災の取組である自助・共助・公助について理解するとともに、自分だけでなく他の人々や地域のために主体的に行動しようとする態度を育てる。

2 研究授業の概要

道徳科と社会科、学級活動との関連を図り、道徳科では「D (19) 生命の尊さ」「B (7) 親切、思いやり」「C (14) 勤労、公共の精神」の内容項目を扱い、道徳的心情から道徳的判断力、道徳的实践意欲と態度をねらうという順で構成した「防災でつながる道徳学習プログラム」の概要を表3に示す。

IV 研究授業について

1 研究授業の内容

- 期 間 令和元年12月6日～令和元年12月18日
- 対 象 所属校第5学年(1学級26人)

表3 「防災でつながる道徳学習プログラム」の概要

時	日時・教科等 主題・内容項目 「教材名等」	ねらい	主な学習の流れ 主な発問(○) 中心発問(◎)
1	12月6日 社会科 「わたしたちの生活と環境 自然災害を防ぐ」	我が国の自然災害について関心をもち、世界の自然災害ランキングから日本の自然災害の状況を捉えるとともに、被害を防止する対策があることに気づき、追究する学習課題をつくる。	1 「防災でつながるシート」のウェビングマップに「自然災害」から思い浮かべたことを書く。 2 世界リスク報告書の自然災害ランキングを見て課題をつかむ。 3 日本は自然災害の多い国であることを資料から調べる。 4 日本で起きている自然災害の特徴について話し合う。 5 学習課題をつくる。 6 「防災でつながるシート」に振り返りをする。
2	12月6日 道徳科 主題「かけがえのない命」D (19) 生命の尊さ 「コースチャバウヤを救え」	コースチャバウヤの失われそうな命を救うために協力した多くの人の気持ちを考えることを通して、生命を救い守り抜こうとする人間の姿の尊さに気づき、かけがえのない生命を大切にしようとする心情を育てる。	1 「防災でつながるシート」から課題意識をもつ。 2 教材を読み、話し合う。 ○ 心に残ったところはどこですか。それはなぜですか。 ◎ 多くの人がそこまでしてコースチャバウヤを助けようとしたのはどんな思いからでしょう。 3 自分の生活を振り返り、自己の生き方について考える。「防災でつながるシート」 4 教師の説話(地域の砂防ダムのこと)を聞く。
3	12月6日 社会科 「わたしたちの生活と環境 自然災害を防ぐ」	自然災害(主に地震、津波、土砂災害)の被害を防ぐために国や地方公共団体が様々な対策や事業(公助)を行っていることを理解する。	1 前時の学習を想起し、課題を確認する。 2 資料から国や地方公共団体、そして呉市がどのような取組をしているのかを調べる。 3 釜石市の取組を調べる。 4 まとめて振り返りをし、次時の学習課題をつくる。「防災でつながるシート」
4	12月9日 道徳科 主題「困った人の身になって」B (7) 親切、思いやり 「くずれ落ちただんボール箱」	親切な行為をしたにもかかわらず勘違いされた主人公のむしゃくしゃした気持ちを考えることを通して、相手の立場に立って考えることの大切さに気づき、見知らぬ人に対してもその人の身になって親切に行動する判断力を育てる。	1 「防災でつながるシート」から課題意識をもつ。 2 教材を読み、話し合う。 ○ 「わたし」は、おばあさんの困っている様子を見ながら、どんなことを考えたでしょうか。 ○ 親切な行動をしていたのに店の人に叱られて、「わたし」はどう思ったでしょう。 ◎ 「わたし」は次に困っている人を見かけたとき、親切にできるでしょうか。また、その理由も考えてみましょう。 3 自分の生活を振り返り、自己の生き方について考える。「防災でつながるシート」 4 教師の説話(豪雨災害で給水ボランティアをした地域の人々のこと)を聞く。
5	12月9日 社会科 「わたしたちの生活と環境 自然災害を防ぐ」	自然災害から身を守るために、地域で行われている共助の取組や防災意識を高めることの大切さについて調べる。	1 前時の学習を想起し、課題を確認する。 2 清水地区の災害前・災害後の様子から気付いたことや分かったことを話し合う。 3 自然災害から身を守るために地域ではどんな取組をしているのかを話し合う。 4 自然災害から身を守るために大切なことは何かを話し合う。 5 まとめて振り返りをする。「防災でつながるシート」
6	12月10日 道徳科 主題「社会や公共のために役立つ」C (14) 勤労、公共の精神 「わたしのボランティア体験」	老人ホームでボランティア活動を体験する中で高齢者に対する見方が変わった主人公の気持ちを考えることを通して、社会に奉仕する喜びに気づき、公共のために役に立とうとする態度を育てる。	1 「防災でつながるシート」から課題意識をもつ。 2 教材を読み、話し合う。 ○ 老人ホームでお年寄りを見たとき、「わたし」はどんなことを感じたでしょう。 ○ 一生懸命ゲームをしているお年寄りを見て、「わたし」はどんなことを考えたでしょう。 ◎ ボランティア活動を体験し、「わたし」はどんなことを考えたでしょう。 3 自分の生活を振り返り、自己の生き方について考える。「防災でつながるシート」 4 地域の人々のビデオメッセージを聞く。
7	12月10日 学級活動 「防災クロスロードゲームをしよう」	災害時に起こりうる様々な場面において、自分の考えをもち、判断し、異なる意見も取り入れながら適切な行動をとろうとする態度を育てる。	1 これまでの学習を振り返り、本時の課題を知る。 2 「防災クロスロードゲーム」について知り、グループ作りをする。 3 「防災クロスロードゲーム」を行う。 4 まとめて振り返りをする。 5 「防災でつながるシート」に、防災のために自分や地域のことを考えて行動する目標を決めて書く。

V 研究授業の分析と考察

1 防災教育と関連させた「防災でつながる道德学習プログラム」は、自己の生き方についての考えを深めるのに有効であったか

「防災でつながるシート」の防災に対する自由記述（「今まで」と「これから」）の事前と事後の比較から分析を行った。見取りの視点は、「防災に対してこれからの思いや課題をもつことができたか」とし、「（自分は）～したい（～する）」と記述した人数を図4に示す。

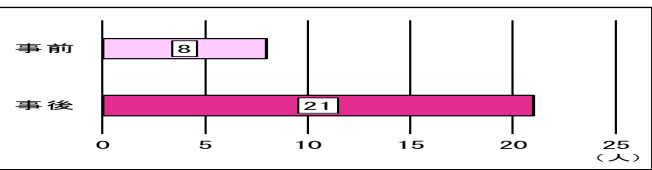


図4 防災に対してこれからの思いや課題をもつことができた人数 (n=25)

防災に対してこれからの思いや課題をもつことができた児童は8人(32.0%)から21人(84.0%)に増加した。

記述内容を見ると、事前では、8人全員が防災について「調べていきたい」など学習への意欲を記述した。事後では、21人全員が「ボランティアをしたい」「災害時の備えをしたい」など災害時や防災のために自分から行動しようとする態度を記述した。さらに、以下のように周りの人のことも考えて記述をした児童が13人いた。

防災にはいろいろな備えがあるほか、大事な助け合い、思いなどのいろいろなことがあるのだと思いました。災害が起きたらその時どうするかなど話し合いをしたいと思います。

私は防災について、自分の命も大切だけど周りの人のことも考えないといけないことを知りました。もし災害が起こってひなするときには、周りのことを考えて行動したいです。

これからの思いや課題をもつことができた児童の記述

防災に対する思いを記述できなかった4人の児童においても、学習を終えての感想では自分で考えて行動しようとする記述が見られた。

以上のことから、「防災でつながる道德学習プログラム」は、これからの自己の生き方についての考えを深めるのに有効であったと考える。

2 防災教育と関連させた「防災でつながる道德学習プログラム」の工夫は、自己の生き方についての考えを深めるのに有効であったか

(1) 道德的価値の視点から防災教育を扱い、道德科、他教科等を関連させたこと

A 道德的価値の視点から防災教育を扱ったこと

道德的価値の視点で防災教育を扱ったことが有効であったかを見取るため、「防災でつながるシート」の自由記述（「今まで」と「これから」）に道德的価値に関わるキーワードが含まれているかの分析を行った。記述を見取る視点を表4に示す。

表4 児童の記述を見取る視点

視点	生命	自分	人	集団や社会
キーワード	命を守る 自分の命 人の命 みんなの命 身を守る 命を救う 生命	備える 避難する判断 自分からする 気を付ける 自助	親切 思いやり 周りの人のこと を考えて	ボランティア 活動 役立つ 支える 助け合い みんな 協力 つながり 共助・公助 地域、社会

キーワードを含む記述をした児童は、事前が9人(36.0%)であったのに対し事後は24人(92.3%)に増加した。

さらに、キーワードの表出数を図5に示す。

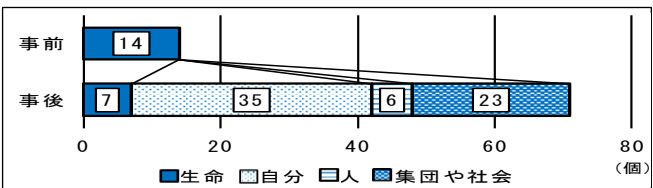


図5 キーワードの表出数

事前では、「防災はわたしたちの命を救ってくれる」「自分の命を守ったり人の命を守ったりすること」など、表出した全てが「生命」のキーワードであった。事後では、「自分で避難する」「素早く判断する」など「自分」のキーワード、「周りのことや人の気持ちを考えて」など「人」のキーワード、「ボランティア」「人の役に立つような行動」など「集団や社会」のキーワードが表れ、道德的価値の広がりやキーワードの増加が見られた。

本道德学習プログラムにおける事前と事後のアンケート「命の大切さについて考えたか」の項目で肯定的回答をした児童(欠席児童1人を除く)は、事前の19人(76.0%)から事後の22人(88.0%)とわずかなではあるが増加した。肯定的回答に変容した児童が3人おり、理由の記述を見ると、事後は「自分の命は自分で守る」など命の大切さについて考えたことを全員が記述できた。「防災でつながる道德学

以上のことから、道徳的価値の視点から防災教育を扱ったことは、生命の尊さから思いやり、公共の精神と、児童が自分自身の課題と受け止める道徳的価値の広がりにつながり、自己の生き方についての考えを深めるのに有効であったと考える。

道徳科と社会科，学級活動を関連させたことがそれぞれ有効であったかのアンケート項目に肯定的な回答をした児童は，社会科では23人（88.4％），学級活動では24人（92.3％）であった。それらの教科等において特に役に立ったと回答した児童Aと児童Bの理由の記述を以下に示す。また，授業での記述などから変容を考察する。

他教科等の関連についての児童Aと児童Bの記述の一部

児童Bは、「学校の防災についての学習をして、自分の心が育つと思いますか」の項目の事前・事後アンケートにおいて、肯定的評価が変容（3→4）した児童である。学習前の記述には、「防災はぼくたちの命を守って安全にしてくれる」と書いた。学級活動「防災クロスロードゲームをしよう」では、災害時に自分で判断して行動することの難しさを実感したことが記述から分かる。さらに、学習後の記

以上のことから、道徳科と社会科「自然災害を防ぐ」及び学級活動「防災クロスロードゲームをしよう」を教科等横断的な道徳学習プログラムとして関連させたことは、児童が防災の自助・共助・公助を理解し、主体的に行動しようとする態度を育むのに有効であったと考える。

本道徳学習プログラムの「防災でつながるシート」の有効性について肯定的な回答をした児童は24人(92.3%)であった。その中でもウェビングマップと振り返りの手立てが特に役立ったと回答した児童C、児童D、児童Eを考察する。

児童Cは理由の記述に、「社会科、道徳科、学活の勉強で知ったことをつなげることで、命の尊さについて考えることができたから」と書いた。ウェビングマップを通して、「生命の尊さ」の道徳的価値について考えたことが分かる。

[illegible]

– 7 –

地域の「人々の努力」に気付き、さらには「防災の文化を受けつぐ」ことが自分たちの使命であると受け止めていることも分かる。ウェビングマップを通して、自己の生き方を見つめ、主体的に行動しようとする態度をより育むことができたと考える。

イ 道徳科における視点から振り返りをしたこと

児童Eは、理由の記述に「『わ、い、自』を示すことで自分の考えなどを整理することができたから」と書いた。児童Eの「防災でつながるシート」の振り返りを見ると、社会科においては「自然災害から身を守るためには地いきにいろいろな取組があることが分かりました」「自分の身を守るために地いきの取組をもっと知りたいです」など「わ」と「自」を書いた。道徳科においては「困っているおばあさんを見て、店の人にしかられても親切にしたのでいいと思いました」「私も困っている人がいたら親切にしようと思いました」など「い」と「自」を書いた。第6時の道徳科では「わ、い、自」全ての視点で振り返りを書き、「自」の視点でボランティアについて以下のような記述をした。

ボランティアをすることはとてもよいことで、された方した方どちらもうれしくなるようなボランティア活動を、自分でもしてみたいと思いました。

児童Eの振り返り「自」の視点で書いた記述

(3) 道徳科の授業で地域の防災活動について話を聞いたこと

道徳科の授業で地域の防災活動に関する説話や地域の人によるビデオメッセージを聞いたことが有効であったかのアンケート項目に肯定的回答をした児童は、26人（100％）であった。特に役に立ったと回答した児童Fの変容を考察する。

児童Fは、「防災で道徳の心が育つか」について事前・事後ともに否定的な評価（1→2）をした。しかし、地域の防災活動について話を聞いたことが特に役に立った理由を次のように記述した。

【特に役に立った理由】	【感想】
防災活動を知ると、防災意識が高くなるから。	助け合うことの大切さについて分かりました。自助・共助・公助の取組をして、地域の人たちで協力することが大切と分かりました。

児童Fの特に役に立った手立ての理由と感想の記述

これらの記述から、児童Fは道徳科の授業で地域の防災活動についての話を聞いたことにより、地域の人々の生き方を見つめる中で、自分も地域の中で助け合ったり協力し合ったりすることの大切さに気

付いたことが分かる。

以上のことから、「防災でつながるシート」の工夫や地域の防災活動について話を聞いたことは、児童がこれからの生き方についての思いや課題をもつのに有効であったと考える。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

道徳的価値の視点から防災教育を扱い、道徳科と他教科等との関連を図りながら、地域の防災の話を聞き、「防災でつながるシート」で思いや課題をもつために工夫して実践した「防災でつながる道徳学習プログラム」は、自己の生き方についての考えを深めることに有効であると分かった。

2 研究の課題

- 防災教育と関連させた教科等横断的な道徳学習プログラムを第5学年以外でも開発し系統的に取り組むことで、自己の生き方についての考えをより深められるようにしていく。
- 道徳科の授業では、防災を自分との関わりで考えられるような教材を吟味したり配列を工夫したりすることが必要である。「災害から命を守るための判断」など、答えの定まっていない問題を多面的・多角的視点から考え続けられるような授業の工夫も考える必要がある。

【参考文献】

- 文部科学省（平成30年）：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別の教科道徳編』廣済堂あかつき
- 赤堀博行（2017）：『道徳科における対話的な学びの基本的な考え方』梶田叡一編著『教育フォーラム59対話的な学び アクティブ・ラーニングの1つのキーポイント』金子書房pp.79-90
- 毛内嘉威（2017）：『『多面的・多角的に考え、生き方についての考えを深める』とは』永田繁雄編著『平成29年版小学校新学習指導要領ポイント総整理 特別の教科道徳』東洋館出版社pp.40-41
- 浅見哲也（2018）：『自己の（人間としての）生き方について考えを深める学習』『道徳教育12月号』明治図書pp.68-70
- 栗林芳樹（2016）：『『現代的な課題』って具体的に何なの？（現代社会を生きる上で直面する課題）』松本美奈・貝塚茂樹・西野真由美・合田哲雄編著『特別の教科道徳Q&A』ミネルヴァ書房pp.106-107
- 柳沼良太（2018）：『『現代的な課題』に取り組む道徳授業』図書文化社
- 広島県教育委員会（平成25年）：『広島県自然災害に関する防災教育の手引』
- 諏訪清二（2015）：『防災教育の不思議な力ー子ども・学校・地域を変える』岩波書店
- 押谷由夫（2019）：『一生の宝ものとなる道徳教科書をー道徳の授業を要に様々な場で活用できる教科書にー』『『教科書フォーラム』中研紀要No.20』中央教育研究所pp.79-81
- 矢守克也（2005）：『防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション クロスロードへの招待』ナカニシヤ出版